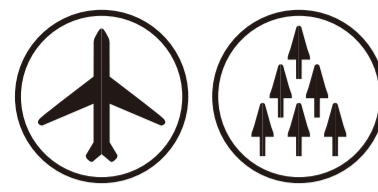


宮崎空港 保安検査場 木質化計画



M MIYAZAKI AIRPORT
SECURITY CHECK PLAN
UCHIDA DESIGN +
NAGUMO DESIGN WORKS

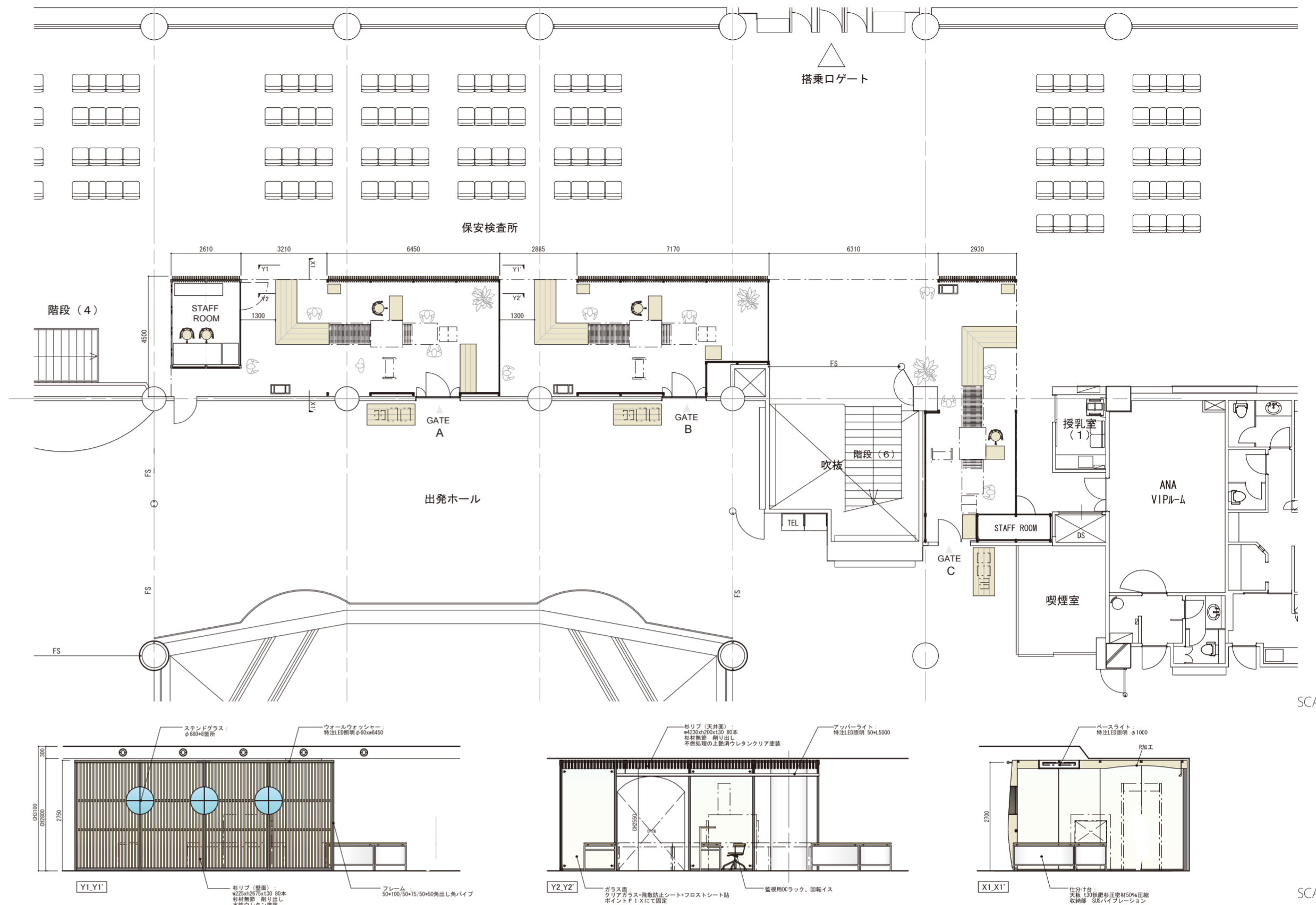
デザイン・設計 内田洋行・ナグモデザイン事務所
施工 竹中工務店
所在地 宮崎市大字赤江宮崎空港内
延床面積 約150㎡



宮崎空港(宮崎県宮崎市)の20周年リニューアル事業の一環として出発保安検査場の改装を行った。当初はコンコースやロビー、カフェスペースなどが計画の対象にあがっていたが、空港という交通施設環境のより良い向上を目指すべく通常はほとんどデザインの対象として扱われていない保安検査場の一箇所に絞り計画した。

このプロジェクトにおいて一番のハードルは様々な法規をいかにクリアするかが問題であった。通常このような木材を使った空間では厳しい規制が求められるが、ゲート全体を大きな家具として捉え、建築に依存しないインフィルとして扱うことで強度基準をクリアしている。また、壁面・天井の木材をルーバー状にし、表面積を減らすことで一切の不燃処理を施さずに消防法をクリアすることができた。

木の材料は壁面天井のルーバー材、仕分け台の天板、スタッフ用の家具にいたるまですべて宮崎県産の飫肥杉を使用している。いうまでもなく杉材は柔らかく弱い材料だがスチールフレームと組み合わせることで強度を保ち、また天板は圧密材を使うことでその弱点をクリアした。また宮崎の杉材は成長が早く、色味も不揃いだがルーバー上に複数並べることで味わい深い独特の表情となり意匠として生かすことができた。その他にもスタンドグラスやLEDの間接照明、警備員の制服のリニューアル、BGMにいたるまで徹底してデザインを行っている。今まで単なる通過点だった検査場をひとつの「もてなしの場」としてとらえ少しでも利用者のストレスを緩和できるような空間づくりを目指した。



SCALE 1:150

SCALE 1:100



ルーバーを有機的な形状にすることで単調な格子に表情をつけ、柔らかな空間を演出した。飛行機の翼の形をモチーフにしている。



警備員の制服もリニューアルし「もてなしの場」を演出している。

摩擦付加のかかる仕分け台の天板は圧密材を使用

宮崎県の花をモチーフにしたスタンドグラス。高輝度LEDでさりげなく木質感を強調している。



天井、壁面、家具に至るまで徹底して杉材を使い、その柔らかい質感と匂いでもてなしの場を演出する。

天井のルーバーはウォールト状に加工し、旅客を包み込むように誘導する。

PHOTO by SCENE